

大牟田まちなか再生シンポジウム

～訪れたい魅力的なまちへ～

令和5年9月23日

開催報告

大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム

開催概要

- 名 称 「大牟田まちなか再生シンポジウム～訪れたい魅力的なまちへ～」
- 主 催 大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム
- 共 催 大牟田市・大牟田商工会議所
- 開催日 令和5年9月23日(土・祝)
- 時 間 14:00～16:30
- 場 所 イオンモール大牟田 2階 イオンホール(大牟田市岬町3-4)
- 来場者 106人

タイムスケジュール

14:00 開会挨拶

〔第1部〕

14:10 基調講演「小さくても、楽しい出来事の連鎖で街の新陳代謝を活性化する
－これからの幸せまちづくり論－」

講師 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩

14:55 休憩(10分間)

〔第2部〕

15:05 (1)大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォームの取組紹介

15:25 (2)パネルディスカッション 「大牟田のまちなか再生について」

16:30 閉会挨拶

開会挨拶



今年度、エリアプラットフォームで、まちなかをどう再生していくか、再活性化するかを議論し、関係者・市民が目指すべき姿をまとめたビジョンを策定する。

本日のシンポジウムは、途中経過をご報告し、関係者にご登壇いただき意見交換を行い、まちなか再生の議論が活発化し、あるいは様々なご意見をいただき、新しい方向性を打ち出す契機となるものにした。

新しい組織と新しいビジョンを今後の取組につなげていただきたい。登壇者の意見を聞き、皆様も刺激を受け、大牟田のまちなかに改めて着目、関心を持っていただき、まちなか再生にご参画いただく契機、機会になればと思っている。

開会挨拶

新総合体育館「おおむたアリーナ」のオープンに合わせて、延命公園全体を市民の憩いと健康作りの場として整備を進めている。

また、新産業団地整備や岬地区へのホテル誘致など街の将来の基盤づくりに繋がるような取組を進めている。

そうした中、大牟田わかもの会議を中心とした街を元気にしようとする動きや、官民が連携してまちなかを再生していこうという新しい動きも始まっている。

こうした新たな動きを大きく発展させ、街を発展させていくことに繋げていきたい。

大牟田市が人口10万人を維持し、有明沿岸地域のリーダー都市として、大きく発展していくためには、魅力ある街を創っていくことが欠かせない。

そのためには、行政だけでできるものではない。

本日のシンポジウムが、官民一緒になって、まちなかの再生を実現していく、そうしたことの一助になればと思っている。



大牟田市
市長 関好孝氏

第1部

基調講演

「小さくても、楽しい出来事の連鎖で街の新陳代謝を活性化する
—これからの幸せまちづくり論—」

講師 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩

講師紹介

株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役
オン・ザ・ルーフ株式会社 代表取締役
呉服元町ストリートマーケット株式会社 取締役
マチノシゴトバCOTOCO215 代表

西村 浩

(建築家/クリエイティブディレクター)

1967年佐賀市生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了後、1999年ワークヴィジョンズ一級建築士事務所(東京都品川区)を設立。土木出身ながら建築の世界で独立し、現在は、建築・リノベーション・土木分野のデザインに加えて、全国各地の都市再生戦略の立案にも取り組む。

北海道岩見沢市の「岩見沢複合駅舎」で日本建築学会賞(作品)、2009年度グッドデザイン賞・大賞を受賞。その他、土木学会デザイン賞、BCS賞、ブルネル賞、アルカシア建築賞、公共建築賞受賞。

近年は、2021年度にグッドデザイン賞4作品受賞(鹿児島世界文化遺産オリエンテーションセンター・福島県石川町文教複合施設モトガッコほか)、都市景観大賞特別賞(糸魚川駅北地区)、土地活用モデル大賞国土交通大臣賞(佐賀市呉服元町ストリートマーケット)、日本空間デザイン賞2021の最高賞 KUKAN OF THE YEAR(神水公衆浴場)、グッドデザイン賞・金賞(神水公衆浴場)を受賞。



第1部 基調講演①

公共施設物は中身がないから誰も使わない。中身を考えて、それに見合ったハード整備をすれば良い。そういった中身の話を今日はしたい。

以前は、床をつくるのがまちづくりだった。ところが、現在、人口減少してきて、床が余っている。その結果、全国各地の地方都市でスポンジ化の状態となっており、それが300年続くと思っている。

しかし、そう簡単に空地进行を埋めてはダメ。どうやったら埋まるかを空地进行を使いながらやっていくことが大事。そのためには、どんな暮らしが、この街の中で欲しいのかということをおぼろげに妄想する。

「スッカスカだけど幸せじゃん」という街での暮らし方をいかに実践できるかが街の未来を変えることに繋がる。その暮らしの中で、子育てや福祉、教育などの様々な地域課題を同時に解決する。

日常が一番大事であり、年に10回しか行わないイベントに一生懸命になっても、360日はみんな疲れている。それよりも、360日を良くするほうが良い。しかし、それは派手でなくて良い。「ちょっと幸せだったらいい」というのを積み重ねる日常をどう創るかが大事。

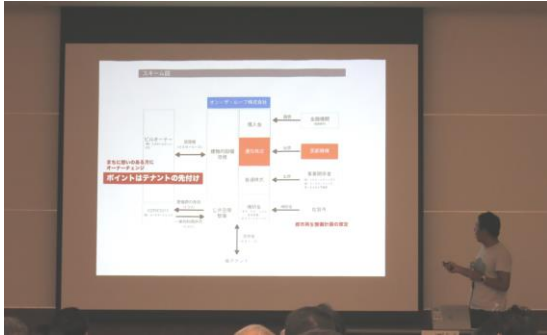


第1部 基調講演②

街のプレイヤーは、昔から民間。それを行政にやってくれということ自体が間違っている。行政は、街中をなんとかしたい、頑張ろうっていう人達が継続的に街で暮らしながら事業ができることを支えられる政策をつくるプレイヤーであると思う。

まず人気の街にすることが先であり、そのプロセスが大事。人気のない街だと固定資産税が激減し、市民サービスが低下する。その結果、子育て支援とサービスのレベルが下がっていき、子育て世代が出て行く。出て行くと空き家が増加し、益々、収益力が激減するという負のスパイラルに陥ってしまうのがまちづくりの課題。いきなり新築ではなく、今ある古い建物、空き家を活用されていくと少しずつではあるが、収益力は強化される。さらに、そうすると生産が上がり、公共サービスのレベルも上がっていき、益々、この街に行きたいという人達が増えてくる。このサイクルを、ちっちゃい投資で、回しながらエリアの価値を上げていくのがポイント。

プレイヤーには、広いエリアに散らばって活動してもらうよりも、まずは、エリアを絞って固まって活動してもらう方が、エリアの価値が上がりやすい。価値が向上したエリアから周囲に波及させ、結果として、当初、計画していたエリアの広さまで広がるやり方の方が良い。しかし、周囲への波及は、人口減少しているため、必ずどこかで止まる。止まっても波及したエリア内が幸せだったらそれでいいというのがいわゆるコンパクトシティの考え。



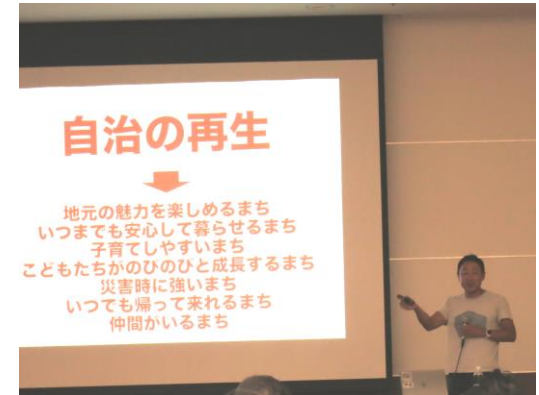
第1部 基調講演③

若者は、前例はないけどやってみる、チャレンジすることがすごく大事。大人達は、それに対して、前例はあるのか、やるな、と言っては絶対ダメ。応援してあげて、軌道修正しながら進めていくことが大事。

ちょっと緑になったらどうかな、みたいな妄想を街の中でして、いかに実現していくか。法律を変えたり、お金をどうやって集めるといったことは行政と一緒に考えれば良い。実行できるかがハードルが高く、チャレンジする勇気と覚悟がいる。だから、「仲間と一緒にやりましょう」「若い人達の応援を大人はぜひ、やりましょう」ということが大事になる。ぜひ、皆さん当事者になってほしい。

ちなみに、お金については、行政の補助金ではなく、銀行にある。銀行がお金を貸す判断は、物件の良さではなく、エリア、街の価値を見る。まずは、玉ねぎ戦法のように、200メートルでも良いから若者達が集まって、良い街にしようというプロデュースをしていくだけで、エリアの価値は上がる。

ぜひ、勇気を持って大牟田市を良い街にしていきたいと思います。



第2部

「大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォームの取組紹介」

大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム 座長 出口 敦

第2部「大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォームの取組紹介」

大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム 座長 出口 敦

令和4年度に設立した大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォームの取組みについて、出口座長より未来ビジョン策定の進捗報告を行いました。



都市の現状や空間特性を踏まえた「まちなか再生」の目指す姿

まちなか再生の目指す姿

- 有明海沿岸地域のリーディングシティとして、様々な空間に魅力的な都市機能が集積し、「市街の賑わい・様々な交流の場となっている」まち
- 様々な人や企業、情報が集まり、多様な活動がミックスされ、「目新しい街が生まれ続ける」まち
- 様々な人や企業、情報が集まり、多様な活動がミックスされ、「目新しい街が生まれ続ける」まち

まちなか再生の基本的方針（検討の前提条件）

- 都市域が持続・向上を促進し、関係人口の拡大
- 都市域に居住・生活の中心となる多様なアクティブな空間の形成
- 多様なネットワーク型都市域の中心となる交通結核点の確保
- 様々な交流の「場」、ヒートスポットの「場」、チャレンジの「場」の形成
- 快適で便利な暮らし環境の実現
- 都市の魅力を高める文化・芸術・スポーツの振興
- 未来ビジョンの実現と実践（コミュニティプラットフォームの活用）
- ハード整備とソフト政策の両輪による、まちなか再生の推進
- 中心部の底上げ効果を周辺部および市外への波及
- 地域課題による対応策

まちなか再生のキーワード

- 緑化
- 都市シンガポール化
- 国際性
- 防犯・防災
- 文化・スポーツ
- 広域コア形成
- 賑わい発信
- イメージ・シンボル・旗鑑
- 市街更新

パブリックゾーン

- 大牟田の賑わい・シンボルとなるエリアを確保
- 国際性・文化発信、多様な交流の場としての役割
- 経済的な交流の場、賑わい発信の場としての役割

イメージ・シンボルゾーン

- 大牟田の賑わい・シンボルとなるエリアを確保
- 国際性・文化発信、多様な交流の場としての役割
- 経済的な交流の場、賑わい発信の場としての役割

エンターテインメントゾーン

- 大牟田の賑わい・シンボルとなるエリアを確保
- 国際性・文化発信、多様な交流の場としての役割
- 経済的な交流の場、賑わい発信の場としての役割

第2部

パネルディスカッション

テーマ 「大牟田のまちなか再生について」

登壇者紹介



モデレーター

大牟田まちなか再生推進
エリアプラットフォーム 座長
東京大学 副学長
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授

出口 敦



有明工業高等専門学校
創造工学科 建築コース
准教授

正木 哲



大牟田商工会議所 青年部 会長
株式会社井形 取締役常務

井形 宏隆



株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役
オン・ザ・ルーフ株式会社 代表取締役
呉服元町ストリートマーケット株式会社 取締役
マチノシゴトパコTOCO215 代表

西村 浩
(建築家/クリエイティブディレクター)



大牟田わかもの会議
大牟田ビンテージのまち株式会社

紫牟田 あいら



大牟田市
市長

関 好孝

Q1.「理想の大牟田のまちなか」とは？

有明高専 准教授 正木 哲 氏

- ・専門分野の教育者として、まちづくりや都市の問題は現場で課題を確認しつつ、解決への取り組みなどを学んでいけるような環境が理想形(学校の中の授業も大切だが、現場を授業のフィールドにすることを心掛けて活動している)。
- ・大牟田は帝京大学(1,300人規模)と有明高専(1,100人規模)と2つの高等教育機関(市外からの入学者が多い教育機関)が立地しており、その卒業生が大牟田に根付くまち(家族で暮らす場として大牟田を選択できる卒業生が増えて欲しい)にしたい。
- ・大牟田は学校と家の通過点になっているので、勉強できる場所とか駅前で過ごせる場所が必要。
- ・学生が「大牟田にある有明高専に通って良かった」という思いになれるかが、戻ってきてくれるかのカギとなる。
- ・次の世代へのバトンを渡すためにも、大牟田の魅力を上げていくことが必要だ。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・大牟田の学生(2,400人)は、まちを通過点としか見ていないのではないかという問題提起と、次の世代へのバトンを渡すためにも、しっかりと「まち」と関わりを持ってもらう、またそういったまちにしていこうという想いが大切だと思う。



Q1.「理想の大牟田のまちなか」とは？

大牟田商工会議所青年部 会長 井形 宏隆 氏

- ・大牟田の人は大牟田(大蛇山、まち、人)が大好きで熱い人が多い。
- ・様々な活動は、各団体(点)を線でつなぎ、大牟田のまち(円)とすることで大牟田市外の人にも情報発信できるのではないかと。
- ・子どもたちが必ず大牟田に帰ってきたいと思える、大牟田を訪れた方がもっと大牟田に居たい、住み続けたいと思ってもらえるような取組みが、大牟田のまちづくりを推進することにつながっていく。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・移住定住の取組みも必要。
- ・大蛇山を見たが、男女問わず多くの方が参加している。
- ・大牟田愛が強い人が多く、それぞれの想いを集めることが重要。また、想いを続けていくことが大切になる。

Q1.「理想の大牟田のまちなか」とは？

大牟田わかもの会議 紫牟田 あいら 氏

- ・まちなかを遊びであふれさせたい。
- ・わかもの会議の高校生でさえ「10年後は大牟田に残っていない」という回答に衝撃を受けた。
- ・若者が都会を選択する理由は、「質の高い遊び(余暇)を楽しめるまち>仕事、収入」というデータがある。
- ・まちなか再生は、かつて産業が栄えたまちを再生することではなく、仕事と併せて「あそび」に注目すること、また大牟田に関わっていきたい人を増やすことが必要だと思う。
- ・ここでの「あそび」は、レジャー・娯楽などの余暇活動的な要素だけない、マインド的な要素(精神上的の余裕や余白)を含んでいる。
- ・遊びの要素は、都会の真似事ではなく、地方の良さを活かした取組みが必要。(レストラン型<BBQ型=自分達で場を産み出す、物事をやり遂げる達成感まで味わう)
- ・若者が遊びを仕掛けるまちづくりをまち全体に広げていくことが出来たらいい。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・遊びであふれさせるとは、自分たちで創ること。
- ・決められる物事ではなく、活動を創る場、活躍できる場づくりは大事だ。

Q1.「理想の大牟田のまちなか」とは？

大牟田市 市長 関 好孝 氏

・大牟田市では、まちなかの将来の方向性は、まちなか活性化プラン(令和4年策定)にて3つの基本方針を掲げており、これに沿って各種事業を推進しているところ。

【まちなか活性化プラン基本方針】・人が集い、自分らしい時間を過ごせるまちなかづくり

・人や企業が躍動するまちなかづくり ・住み心地が良いまちなかづくり

・大牟田駅を起点とした賑わい創出事業(路面電車204号のカフェ、西口広場におけるマルシェ等の各種イベント等の実施 ⇒周辺では新規店舗の出店増加の効果)

・若者発！つながるまちなかづくり事業(大牟田わかもの会議における取組み ⇒大牟田駅西口のわかもの居場所・情報発信の場づくりへと進展)

・地域子育て支援拠点事業(えるる／つどいの広場～子育てしやすい環境づくり)

・このような取り組みを続けることで、まちなかが快適で、活気があって、居住空間としても魅力があるまちを目指したく、エリアプラットフォームにおける未来ビジョンづくりに多いに期待している。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

・市では、既にまちなか活性化プランが策定され、その方針に従って新しい事業や取組みが展開されている状況。

・事業のキーワードを見ると、子育てしやすい場づくり、居場所づくりなど、西村氏の講演内容と多く関連しており、ビジョンへの反映も必要だ。

Q1.「理想の大牟田のまちなか」とは？

株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩 氏

- ・各パネラーの意見を組み合わせると、まちに想いを持つ人材(正木)×働く場・環境の創出(井形)×如何に大牟田らしい遊びを創るか(紫牟田)=総花的なまとめ(市長)
→このような取りまとめ方・見せ方により、ビジョンへの共感が得られやすい
- ・空きビルの活用(低層部/カフェ、食堂、銭湯など、上層部/学生寮)で学生がまちなかに住む取組みを。
ex.まちにコミットする学生のための「バイト付学生寮」
- ・働くという環境を知ってもらうことが大切。
- ・「大牟田らしい」遊びを作ることが大切。
- ・教育は大人が主語、定型的な仕組み、これからは遊育は子どもが主語→創造力が高まる
ex.キッズリノベーションスクール
→創造性、生産性が高まらないと、大牟田らしくならない
- ・行政の施策は響かない→響かせるためには3名のキーワードに対し、行政施策への紐づけが必要。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・3名(正木、井形、紫牟田)からの発言は、大牟田らしいまちなかでの働き方、遊び方、暮らし方に向けて語られたことで、その場所を作る、支援するのが行政の役割ではないだろうか。
- ・それらは全てが繋がっていて、明文化した内容がビジョンとして打ち出していければ良いのではないだろうか。

Q2.「理想の大牟田のまちなか実現に向けて」

有明高専 准教授 正木 哲 氏

- ・学生一人一人が、通学時間や放課後まで含め、充実した学生生活を送れること。また、それに向けて取組むことがウェルビーイングに繋がるだろう。そこでは、自立的な活動・行動が学内外でいかにできるかが大切になる。
- ・自己肯定感や達成感などの効果が得られるため、紫牟田さんの「遊び」も含めて重要だ。
- ・高専の学生は専門性の高いことを学んでいる。それをまちなかで実践できる場面に触れることで、自分の存在意義を感じる事が出来る。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・若者が活躍する場づくりとして、わかもの会議と連携していくことが挙げられる。
- ・これまで都市を評価する場合は、空から都市を見て、道路の広さや緑の量などの内容が多かったが、むしろこれからは、そこで暮らしていく人達がどれだけ幸せに暮らせるか＝ウェルビーイングという考え方が必要。
- ・学生たちのウェルビーイングを高めるためには、自立性やそれが得られるまちなかでの仕掛けが必要となるだろう。

Q2.「理想の大牟田のまちなか実現に向けて」

大牟田商工会議所青年部 会長 井形 宏隆 氏

- ・まちづくりには様々な主役が必要で、まちをより良くしていこうとする、お互いの尊重や思いやりが重要。
- ・ハードとソフトの連携と併せて、本来的な官民連携の意味合いより強みを共有し、不足する分を補い合うことで、持続可能なまちづくりにより魅力ある大牟田が創れるのではないだろうか。
- ・大牟田の魅力を市外に発信していくことで、交流人口や関係人口の増加～消費の拡大～雇用の確保～移住・定住の促進に繋がるのではないかと。
- ・11月に「まち、いこ！」を実施して、まちなかの賑わい創出に取り組む。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・まちづくりは行政だけではできないという、官民連携の重要性を示していただいた。
- ・まちに関わるあらゆる人(地権者、民間事業者、住民など)がお互いに持っている強みや特色を出しながら、補い合う形が官民連携の基本だ。
- ・「まち、いこ！」で賑わいを創出し、次のステップとして、移住定住につなげていくことが大切。ここで暮らしたい、という想いにつなげる必要がある。

Q2.「理想の大牟田のまちなか実現に向けて」

大牟田わかもの会議 紫牟田 あいら 氏

- ・ピンチはチャンス。見方を変えれば資源が沢山ある。
- ・なければつくる(DIY)、つくる時には地域や市民を巻き込んで行う。ただ与えられるだけではなく、全ては自分事に捉えていくことが重要だ。
- ・大人が決めてやるだけは簡単だが、BBQ型で努力することで愛着につながる。
- ・マッチング(やりたい人、何がやりたいか分からない人を繋ぐ役割)をやっていきたい。
- ・若者の声を聞く動きがあることを活かして、これからのまちづくりに取り組んでいきたい。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・まちづくりは与えられるものではなく、自ら作り上げていくもの(DIY)という意識を持つことが重要。
- ・まちづくりをしたいと思っている人とマッチングをしていく必要がある。
- ・作り上げたものを「まちのシンボル」としてほしい。

Q2.「理想の大牟田のまちなか実現に向けて」

大牟田市 市長 関 好孝 氏

- ・大牟田駅西口は路面電車204号のオープンを契機として周辺に波及しており、比較的若い方が頑張っている。
- ・アウレア開業、大牟田アリーナ、ルートイン、多くのイベント実施など、新しい動きが広がっている。
- ・これらを皆で取り組むために、ビジョンへ反映・実現していくことが重要。
- ・ビジョンに大変期待しているが、実行部隊が大事になる。UDCを活用した官民連携の取組みに期待したい。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・関市長のリーダーシップのもと、行政の協力をお願いしたい。

Q2.「理想の大牟田のまちなか実現に向けて」

株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩 氏

- ・まち歩きをしたが、まちなかには今後の可能性を見出せる兆しがある。
- ・ネイバーフッドコミュニティ(「あそこに行けば誰がいるよね」の場)が大牟田にないので、そんな場所ができるといい。
- ・イベントの名称は社会実験へ名称を変えて、「未来の日常」を目指した実験をこまめに実施していく。圧倒的な風景(妄想)を未来の日常として意識しながらイベントをやっていくと、未来が見えてくる。
- ・建築はテープカットをした時がピークではない。理想的な建築は解体するときに反対運動が起きるもの。
- ・たくさんの方が共感できるプロセスに価値を見出す取組みが重要。
- ・遊びがなければ楽しみがない。笑って取り組もう。



大牟田まちなか再生推進APF 出口座長

- ・未来の日常をつくる、多くの示唆を頂いた。
- ・まちなかと郊外の良さがそれぞれあるが、まちなかの良さ・価値を忘れかけている。まちなかは人が集まる、偶然の出会いがある、それを如何に生かすか。そこでの働き方、遊び方、暮らし方、学び方を、実現するための場を創ることが必要だ。

講 評



①まちなかを活かす

大牟田はまちなかと郊外それぞれに良さがある。

まちなかの価値を忘れかけていると思う。

まちなかには、様々な人が集まりやすい場所という良さ、面白さがある。

まちなかの良さを活かすには、大牟田らしい遊び方、働き方、学生の暮らし方、学び方を実際に実現する場を創っていかないといけない。

②人材育成

将来のまちづくり、まちのバトンを渡す相手を育てる。

学生が戻ってくるようなまちを作っておく。

③都市経営の観点

固定資産税などまちなかは市の税収源となる。みんなで都市を経営していく。

一過性の取組で終わらず、都市を経営していくという観点から街を見ていく。

④社会実験

何のためにやるのか、まちの将来にどうつなげていくのか、考えながら取り組むことが大事。イベントを活用して、将来のまちづくりにつながる組織を作してほしい。

そのためには、公民学連携が必要。「学」は学識者の学だけではなく、学生の学でもある。学生にまちづくりに参加して、提案してもらうことが非常に重要。一部でも実現できれば、大牟田に愛着を持てる。

講 評



⑤価値

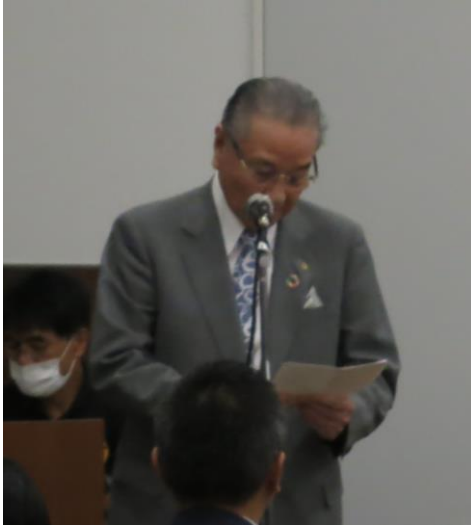
3つの価値を意識してまちなか再生を進めていくこと

- ①プロセスの価値（まちなかを育てていく）
- ②エリアの価値（環境的価値を上げていく）
- ③人の価値（人が中心で輝いている）

まちなかを育て、再生していくためのプロセスにこそ価値があり、それが結果的にエリアの価値（不動産の価値・環境的な価値）を上げることにつながる。

まちなかは、人が光り輝き、スポットを浴び、眠っている能力を活かせるような、人の価値を上げていくための場にもなる。

閉会挨拶



大牟田商工会議所
会頭 板床 定男 氏

地元経済団体として、皆様が発言された熱い想いについて、今後の計画策定に活かしていきたいと思っている。

商工会議所として、今後のまちづくりを左右するまたとないチャンスと捉えている。

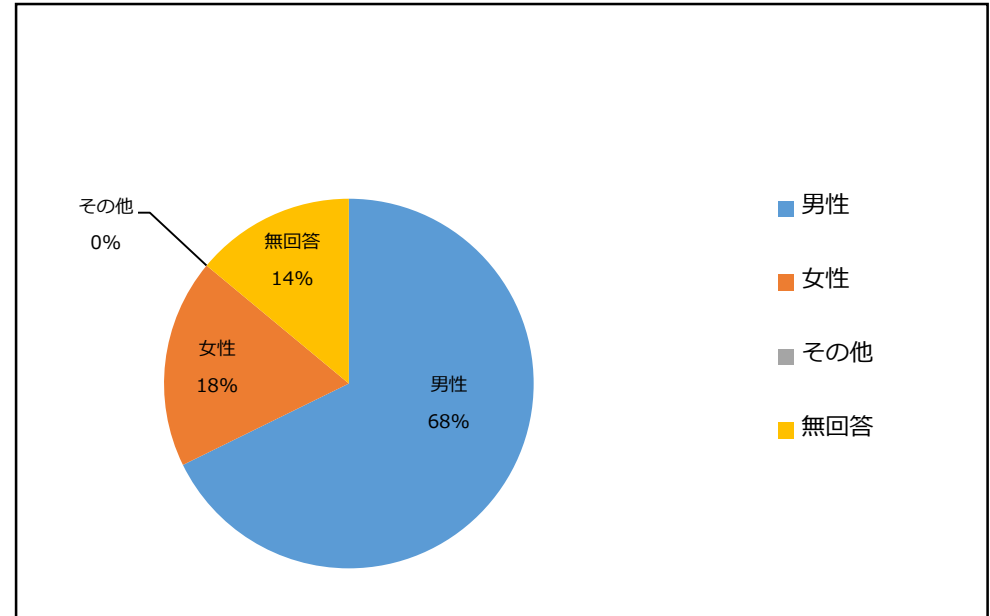
この機会を逃すことなく、行政及びエリアプラットフォームと連携し、さらに市民の皆様方とビジョンを共有して、ビジョンの実現に向けて全力で取り組みたいと思っている。

アンケート集計

【参加者106名 回答者93名 回答率87.7%】

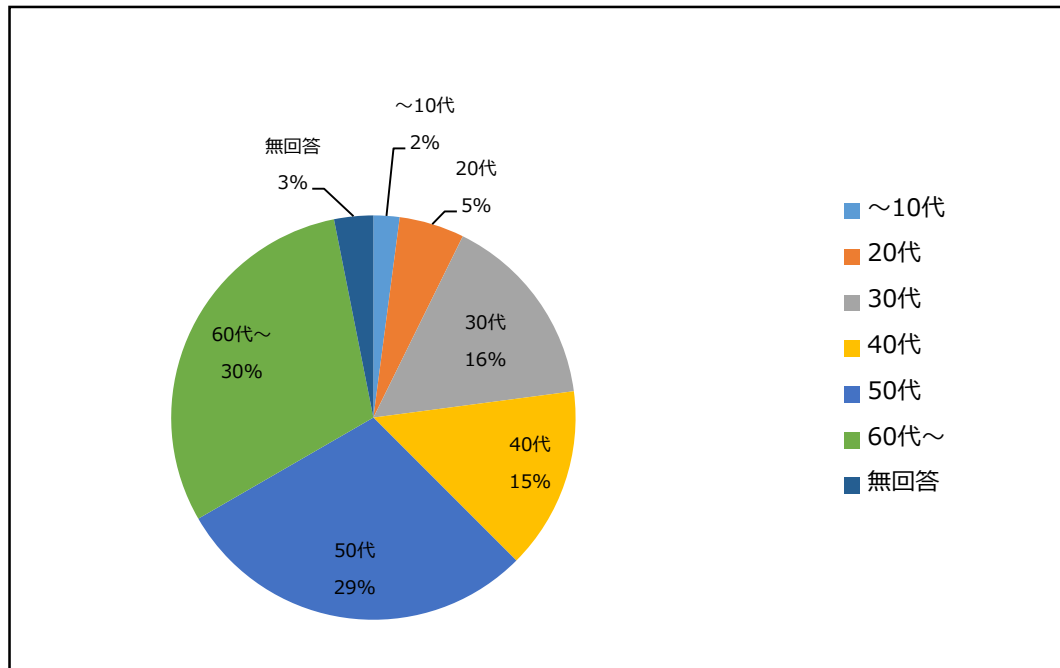
Q1.性別

男性	63
女性	17
その他	0
無回答	13



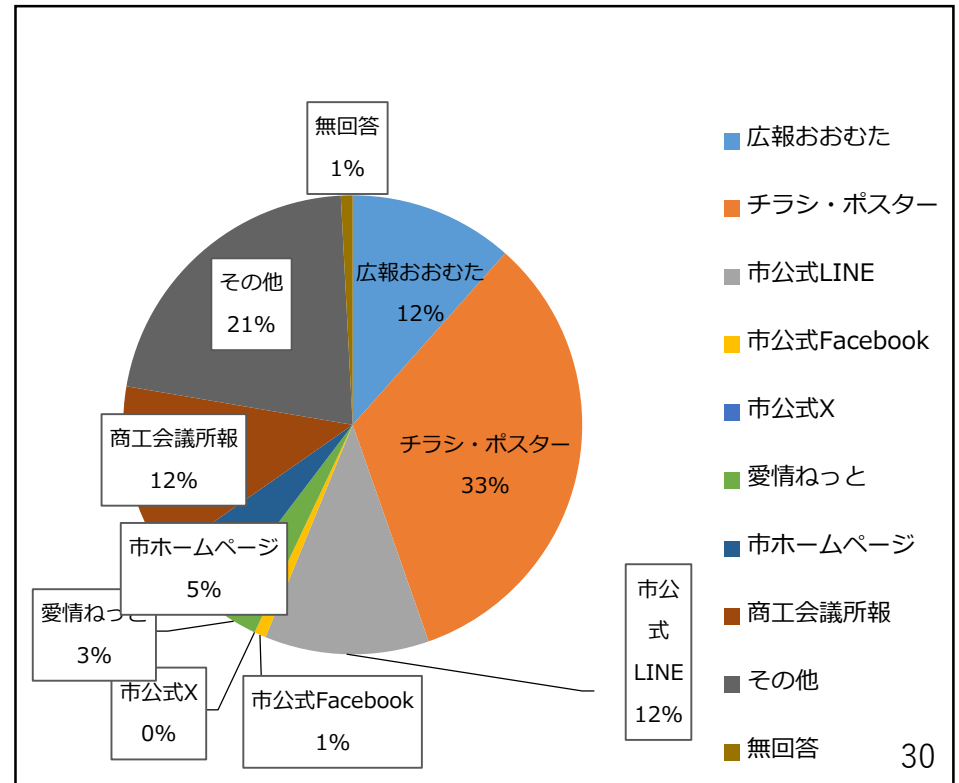
Q1.年代

～10代	2
20代	5
30代	15
40代	14
50代	28
60代～	29
無回答	3



Q2.本日のシンポジウムを何でお知りになりましたか（複数回答可）

広報おおむた	14
チラシ・ポスター	40
市公式LINE	14
市公式Facebook	1
市公式X	0
愛情ねっと	4
市ホームページ	6
商工会議所報	15
その他	26
無回答	1

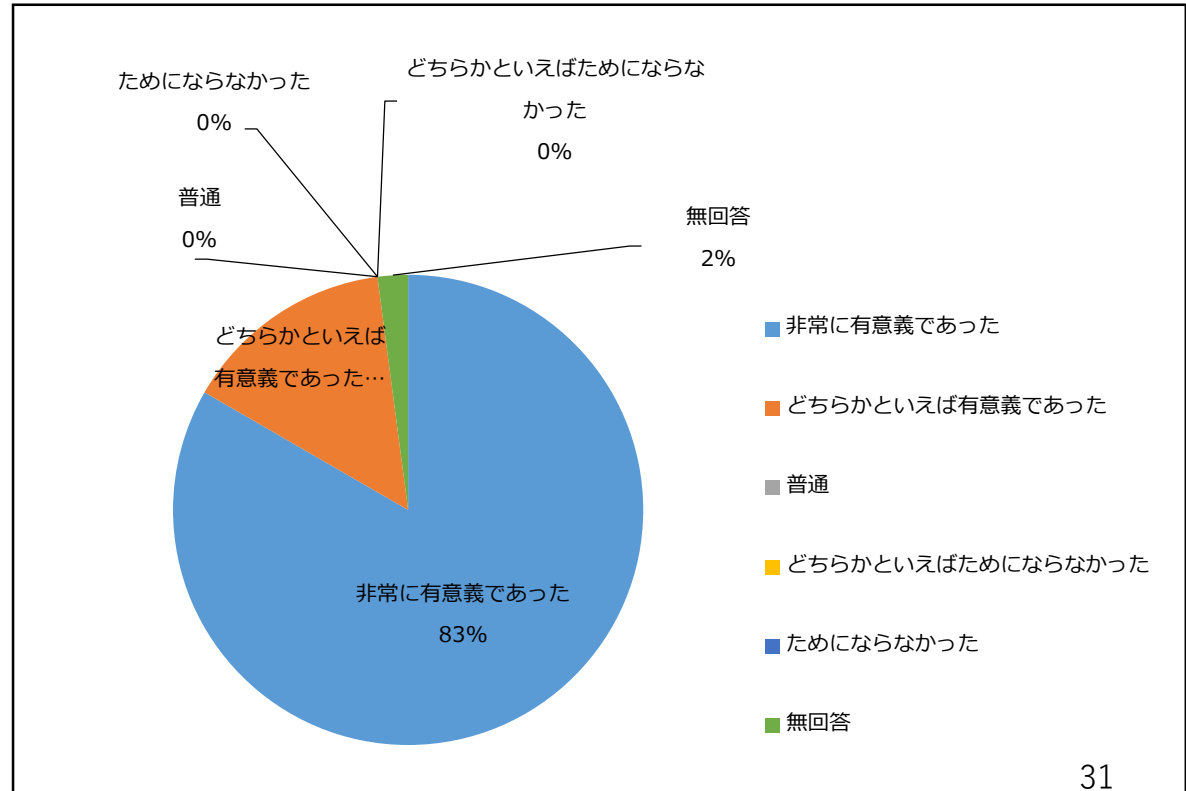


Q3.本日のシンポジウム全体を通して、いかがでしたか。

非常に有意義であった	80
どちらかといえば有意義であった	14
普通	0
どちらかといえばためにならなかった	0
ためにならなかった	0
無回答	2

<ご意見・ご感想>

- ・多くの観衆が集まったことで、市民の関心の高さを感じた
- ・真剣に大牟田の未来を論じていただき、刺激になった。自分も頑張りたい
- ・自分達のマチは自分達で創る意識を持つことが重要
- ・大牟田が変化する一步になってくる気がした
etc.

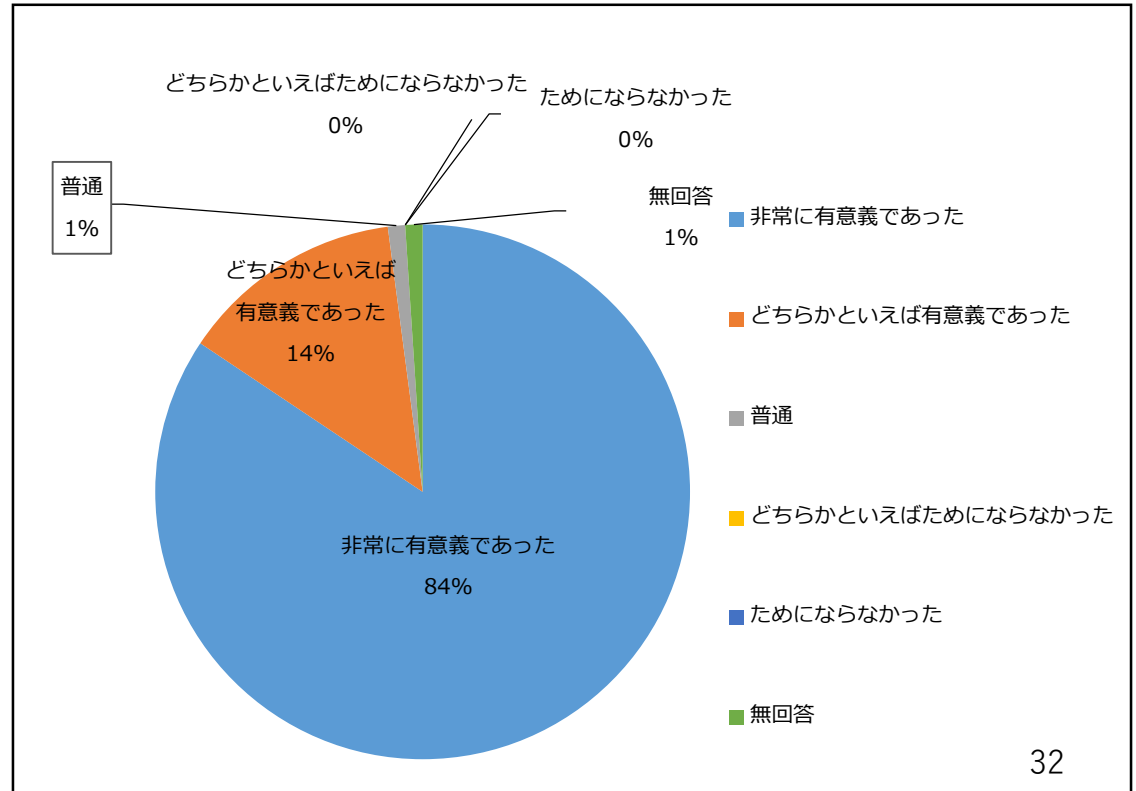


Q4.基調講演「これからの幸せまちづくり論」はいかがでしたか。

非常に有意義であった	81
どちらかといえば有意義であった	13
普通	1
どちらかといえばためにならなかった	0
ためにならなかった	0
無回答	1

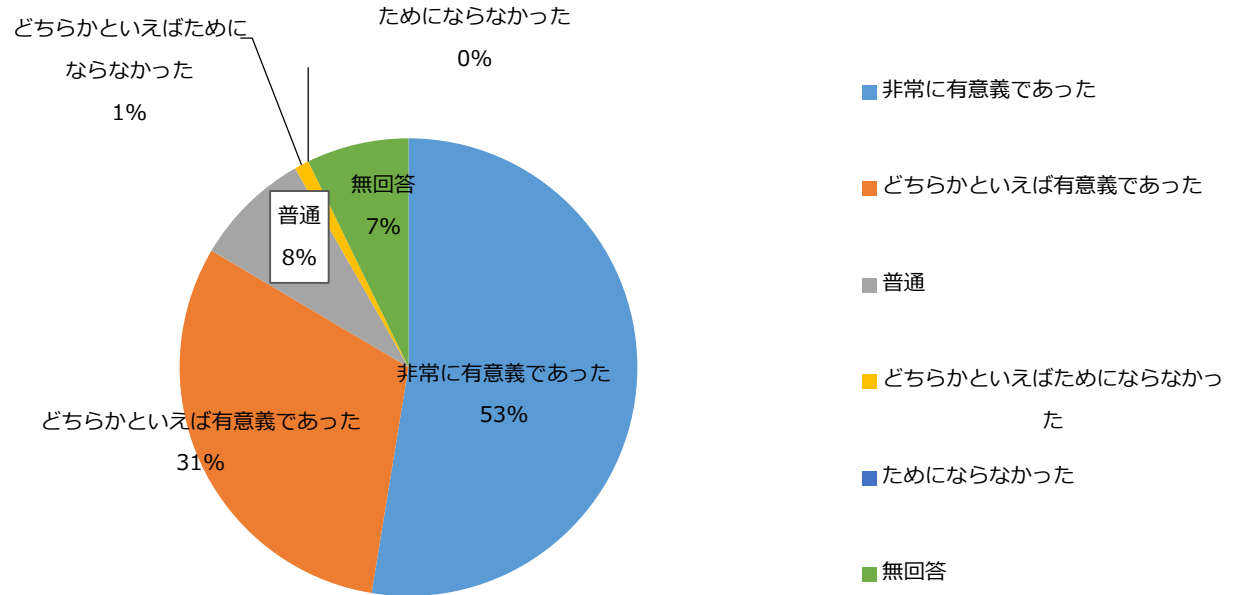
<ご意見・ご感想>

- ・大牟田のポテンシャルを感じた
ぜひ自分自身ができることを考えたい
- ・大牟田もできると希望が湧いてきた
- ・子どもに繋ぐまちづくりの重要性を再認識した
etc.



Q5.エリアプラットフォームの取組紹介はいかがでしたか。

非常に有意義であった	51
どちらかといえば有意義であった	30
普通	8
どちらかといえばためにならなかった	1
ためにならなかった	0
無回答	7



<ご意見・ご感想>

- ・大牟田のまちなかの改善策、将来像を知り、より明るい大牟田について考えることができた
- ・市外在住だが、大牟田市の現状とこれからの取組の方向性がよく理解できました
- ・若い人の意見を取り入れて、魅力あるまちになることを期待しています

etc.

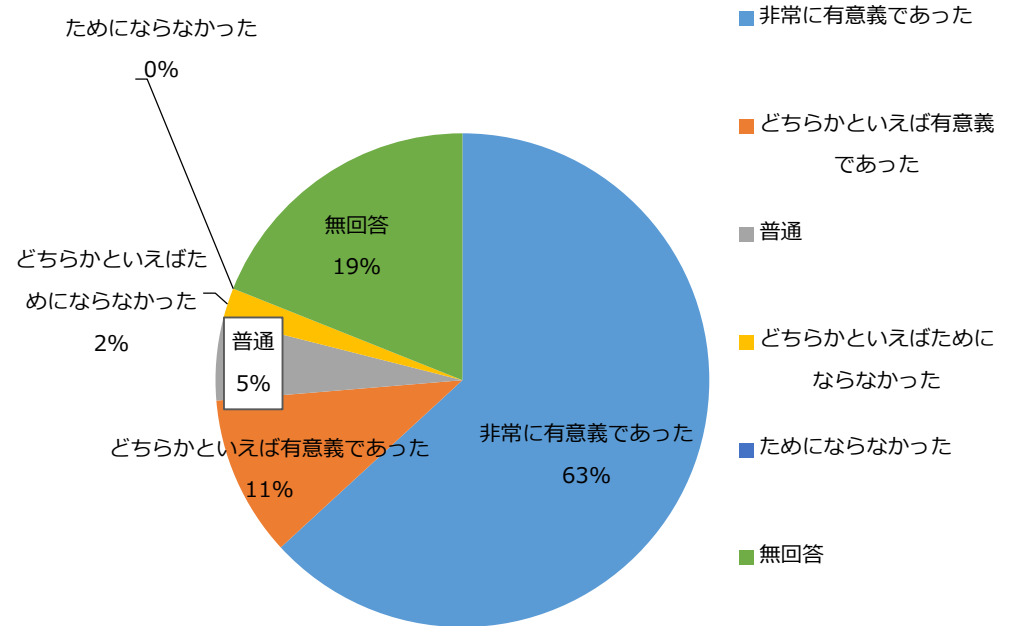
Q6.パネルディスカッションはいかがでしたか。

非常に有意義であった	60
どちらかといえば有意義であった	10
普通	5
どちらかといえばためにならなかった	2
ためにならなかった	0
無回答	18

<ご意見・ご感想>

- ・ 総論的ではなく、具体的な意見を聞くことができてよかった
- ・ 大牟田を元気にするためのヒントが沢山でてきたディスカッションだった
- ・ 次の世代にバトンを渡す相手がわかもの会議をはじめとした若い人達を育てること、若い人達の意見を汲むことだと改めて感じた

etc.



Q7.その他自由意見（ご意見・ご感想）

- ・ まちなか再生期待しています
- ・ 未来を担う方々（世代）のセレクトで暮らしが創造できてよかった
- ・ 自ら行動することの大切さを改めて認識できた
- ・ 大牟田らしいビジョンの実現を楽しみにしています
- ・ まちづくりの観点で考えるヒントを多くいただける時間だった
- ・ 大牟田の未来は明るいと改めて感じた

etc.